

コンピュータサービス 技能評価試験

公的資格試験

CS試験

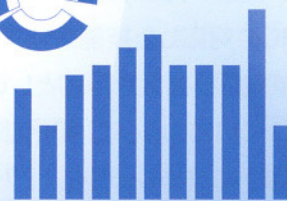
認定施設制度のご案内

○コンピュータサービス技能評価試験の特徴は？

【公的資格試験】
国の定める法律、職業能力開発促進法で能力評価の専門機関として設立された職業能力開発協会が行う試験です。

【実務的な試験内容】
入門者からエキスパートまでを対象にしたグレード設定。（上位から1級→2級
【実務レベル】→3級）
いたずらに機能操作だけを評価する試験ではなく、実務作業を想定した実社試験
で、実務で活用できる能力を評価するため、即戦力の人材を育成・評価することができます。

【社会で戦力となる部門認定】
基本アプリケーション操作として「ウェブ部門」、「会計部門」、IT社会では
必須で今後ますます重要な「情報セキュリティ部門」の3部門を設定！



貴教育訓練施設様も 「コンピュータサービス技能評価試験」の 認定施設になりませんか？

認定施設として認定されれば、試験実施業務を委託し、施設・学校様の都合の良い時期に自由に試験を実施していただくことが可能になります。

現在、認定施設は全国に約1,500施設登録されており、年間約4万人以上の方が受験しています。

コンピュータサービス技能評価試験とは？

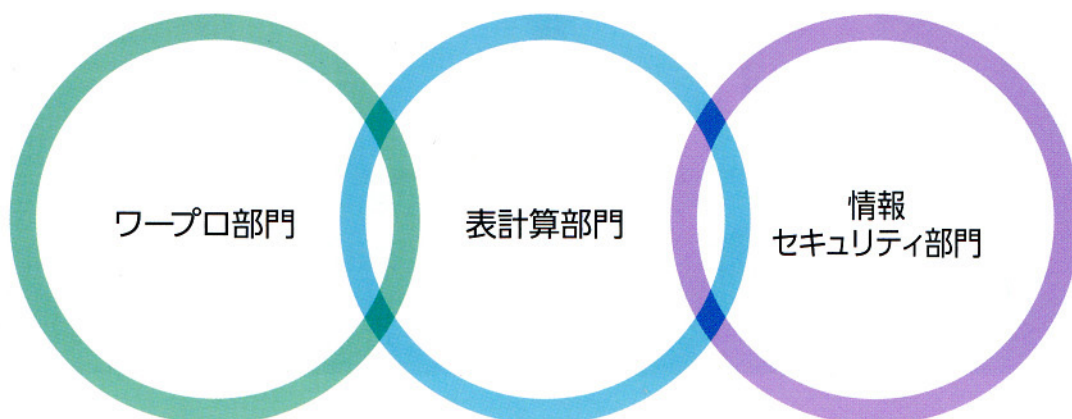
昭和58年度に「OA機器操作技能評価試験」という名称で、「パソコン部門」としてコンピュータ言語であるBASICに対応した技能評価試験を開始、翌年からは「ワープロ部門」を実施し、昭和61年度には、同試験の一層の普及・拡大を目的として、「認定施設制度」を開始しました。

以降、ニーズに対応して、新規部門を創設し、制度の名称も平成9年度に現在の「コンピュータサービス技能評価試験」に改称し、現在、「ワープロ部門」、「表計算部門」、「情報セキュリティ部門」の3部門を実施しています。

コンピュータ関係試験のパイオニアとして35年の歴史を誇り、これまでに全国で250万人以上の受験申請者数を数えています。

コンピュータサービス技能評価試験

CS試験



コンピュータサービス技能評価試験の特徴は？

(以下 CS試験)

公的資格試験

国の定める法律、職業能力開発促進法で能力評価の専門機関として設立された職業能力開発協会が行う試験です。

実務的な試験内容

入門者からエキスパートまでを対象にしたグレード設定。(上位から1級→2級 (実務レベル) →3級)
いたずらに機能操作だけを評価する試験ではなく、実務作業を想定した実技試験で、実務で活用できる能力を評価するため、即戦力の人材を育成・評価することができます。

社会で戦力となる部門設定

基本アプリケーション操作として「ワープロ部門」、「表計算部門」、IT社会では必須で今後ますます重要な「情報セキュリティ部門」の3部門を設定！

リーズナブルな受験手数料

複数の部門にチャレンジできるように5,250円～7,820円といったリーズナブルな料金体系！

確実に役に立つ資格

目的は、実務で役立つ試験。即戦力となる人材の育成。確実に役立つ資格になります。

近くに相談できる職業能力開発協会

全国都道府県に職業能力開発協会の試験実施に関する相談窓口があり、試験実施をサポート！CS試験以外にも国家検定の技能検定試験や能力開発に関する幅広いサポートが受けられます。

※別途CS試験の概要パンフレットを用意しております。



CS試験認定施設の特徴(施設としてのメリット)は?

認定施設としての信頼性の向上

認定にあたっては、一定の基準を設けて審査させていただきますが、適合であると職業能力評価の専門機関である職業能力開発協会が認定することにより、特に民間訓練施設での信頼性向上につながり、施設への入校希望者から見て大きな判断材料となることが期待できます。

試験日は自由に設定

試験は、5月上旬～翌年3月までの期間内であれば自由な日程で何回でも実施することができます。例えば、3ヶ月の訓練コースの終了時に併せて試験を実施して、教育の集大成としての評価・確認を行う事ができます。

受講者、学生を確実に育成

前述のとおり、教育カリキュラムに即した試験内容であり、実務的な内容のため、受講者や学生の目標設定に最適です。

自施設での受験

試験のために、わざわざ遠く離れた試験会場に出向いたり、環境の違う場所で試験を受ける必要がありません。普段学んでいる施設や学校で試験を受けることができ、普段の平常心で試験を受けることができます。特に、日頃使い慣れた機器や環境で受験ができるというのが最大のポイントです。

明確な採点と評価そしてフォローアップ

認定施設では、試験業務を委託して試験を実施いただき、併せて採点業務までを行っていただきます。採点業務は、受験者の実技課題を個別に行いますので、採点にはそれなりの手間がかかります。しかし、その反面メリットもあります。それは、受験者一人ひとりの習得度合いが把握でき、これにより、今後のフォローアップに役立てることができるのです。すなわち、教育→評価→フィードバックによるフォローと理想的な教育体系が構築できます。

採点に関しては、評価手法等のノウハウを試験委員に情報提供することで、明確な評価が行えます。

評価は実務に沿って

試験は、実作業に沿った内容です。仕事の効率化やスキルアップを目指す方にも最適ですので、会社からの委託訓練等の評価ツールとしての導入にも適しております。

施設使用や採点の費用配分

受験手数料の一定額を試験実施手数料として施設・学校様にお支払いします。

例、受験者1人あたり

1級の場合…受験料7,820円のうち4,940円

2級の場合…受験料6,580円のうち3,700円

3級の場合…受験料5,250円のうち2,370円

※但し、情報セキュリティ部門については、
[5,250円のうち1,050円]をお支払いします。

CS試験活用者の声

CS試験を活用している企業の担当者

- 企業内教育を効果的に行うには、「教育+評価」を導入することが効率的で、CS試験は、試験内容が実務に即しているので評価ツールとして適切だと思います。
- 試験導入前は、各自のやり方で事務処理を行っていたが、CS試験を導入後、統一したやり方が主流となり、職員間で仕事の分業や情報共有等が活発になり、短時間で、効率的に業務を行えるようになりました。

CS試験を取得した社員の方

- 今まで、独学で充分と思っていたが、CS試験の勉強をして、より効率的に業務を行える方法を学びました。
- 実務で活用できる試験内容なので、資格を取得することにより自信を持って仕事ができるようになりました。

CS試験を導入している大学の担当者

- CS試験は、実務に沿った試験内容であることから、コンピュータの操作と併せて、ビジネス文書を作成する能力を身につけることができる点が、卒業後社会に出た時に非常に役立つ試験であると考えています。
- CS試験認定施設制度の良い点は、普段、学校で使い慣れているパソコン環境で実施でき、試験日も自由に設定可能で、授業のカリキュラムに合わせて、授業をしながら資格も取得できるという点では非常に効率的な試験だと思います。しかも、受験手数料も安価で学生への負担が少ない点も良いと思う。また、実施面でも、県能力開発協会と連携し、協会から諸々のサポートを受けながら試験が実施できるので安心して運営できる点も心強いです。

認定施設制度に関する詳細等は、下記の都道府県職業能力開発協会へお問い合わせください。

また、CS試験全体概要や詳細は、中央職業能力開発協会ホームページをご覧ください。

[] 職業能力開発協会

住所 〒

TEL

FAX

アドレス



中央職業能力開発協会
能力開発支援部 試験業務課

〒160-8327 東京都新宿区西新宿7-5-25 西新宿木村屋ビルディング11階
TEL:03-6758-2840 FAX:03-3365-2716
アドレス：<http://www.javada.or.jp>
